



新年のご挨拶

あけましておめでとうございませす  
皆様には健やかに新年を  
お迎えのこととお慶び申し上げます



大阪地方本部 執行委員長  
禪野 康

旧年中はJR西労組大阪地方本部の諸活動に多大なるご支援ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。公共交通機関としての使命を果たし、昼夜を問わずJR西日本グループの安全安定輸送を担って頂きましたこと、また年末年始輸送の完遂に向けて尽力いただいていることに敬意を表します。

本年も組合員の皆様とともに、安全を最優先に益々魅力と求心力ある大阪地方本部を創ってまいります。

1. 自然災害への備え、社会への変化対応について

昨年、新年早々に能登半島地震が発生し甚大な被害をもたらして以降、8月には南海トラフ「臨時情報」が発表されるなど、各地で自然災害による被害が多数発生し、今もなお、能登半島では、豪雨災害による、ライフラインや道路の寸断など、被災地は震災発生直後の状態に戻っているといわれています。私たちは、これまで、救援カンパや復旧ボランティアの派遣などを通じて、被災地に寄り添ってまいりましたが、今後も息の長い取り組みを連合の仲間と共に取り組んでいきたいと思ひます。自然災害はいつどこで発生するか予測できません。そのため、私たち一人一人が、万が一に備えて、日々の業務を通じて異常時対応と共済の加入の点検などをしっかり行うことが大切です。

一方で、ポストコロナに向けて社会経済活動が加速してきたこともあり、JR西日本グループの2024年度中間決算は、ご利用の回復、敦賀延伸効果、組織(コスト)構造改革の成果もあり、一定の喜ばしい結果が出ましたが、年度末に向けて更にお客様にご利用いただけるよう、皆さんとともに力を合わせたいと思ひます。

2. 更なる職場からの安全確立を

昨年、北陸新幹線敦賀開業をはじめ、大阪駅西エリアの開発などが花開きました。今年はいよいよ、大阪関西万博を控え、JR西日本グループの施設も多くのお客様にご利用いただける機会が増えます。特に万博への輸送業務については、職場の声を大切にしながら混乱を最小限に抑えつつ、安全かつ円滑な輸送サービスが提供できるよう労使でしっかりと議論を重ねていきます。

福知山線列車事故から今年で20年が経過します。すべての組合員が安全最優先の重要性を理解して職場から取り組みを進めていますが、不断に実行するのは決して容易ではありません。JR西日本グループ鉄道安全考査計画「2027」がスタートして3年目、折り返し年度を迎えることとなります。

3. 2025春闘に向けて

2024年は、「お客様が死傷する列車事故」、「鉄道死亡労災」が発生させることなく乗り越えることができましたが、「歩間違えれば重大労災につながる」かねない、これまでの類似の事象である「感電」、「墜落」、「転落」、「退避不良」などが、多数発生していることにも危機感を持たなければなりません。これらの事象は、手順やルールを守っていれば防げたはずで、「(A)当たり前のこと」、「(B)馬鹿にせず」、「(C)ちゃんとすること」で、痛ましい事故が防げるといふことを全組合員に浸透させなければなりません。悲劇を二度と繰り返さないために、ABC運動をすべての職場で実践し取り組んで頂くことを要請します。

4. 魅力と求心力あるJR西労組を創ろう

昨年、組合員に対して、職場からJR西労組運動を献身的に取り組んでいただくことに感謝いたします。現在、組織率は96%に迫っていますが、この状況を更に発展させ、信頼される組織づくりを進めなければなりません。コロナ禍では、本来の労働組合の活動が制限されたこともあり、労働組合の存在意義が薄れていると感じることもあります。しかし、労働協約や春闘の成果を通じて、労働組合の重要性を改めて実感していただけるよう運動を

5. 政策実現に向け政治への理解参加を深める

また、女性役員の育成にも組織をあげて取り組むこととします。今、西労組全組合員のうち、女性比率は約15%程度であり、組合役員の女性比率では約11%程度と非常に低くなっています。家庭と組合活動の両立などの課題はありますが、この数年、女性が活躍できる職場環境も多くの改善が図られていることから、女性の声を会社に届けるためにも、女性役員が活躍できる環境整備も含め、取り組みをすすめていくこととします。

また、女性役員の育成にも組織をあげて取り組むこととします。今、西労組全組合員のうち、女性比率は約15%程度であり、組合役員の女性比率では約11%程度と非常に低くなっています。家庭と組合活動の両立などの課題はありますが、この数年、女性が活躍できる職場環境も多くの改善が図られていることから、女性の声を会社に届けるためにも、女性役員が活躍できる環境整備も含め、取り組みをすすめていくこととします。

本年もよろしくおねがいます 大阪地方本部執行部一同

Grid of executive committee members with photos and names: 川勝 透貴, 岡田 忠士, 川原 晃一, 白井 聖二, 寺井 竜司, 内田 通, 細田 春菜, 谷口 博一, 安倍 大貴, 村瀬 徹朗, 猪狩 孔隆, 松本 憲亮, 北原 奨也, 山下 衿緒, 天羽 晃平, 淵脇 文明, 高橋 良樹, 中島 健太, 矢持 崇, 居相 彰宏, 牧野 豊和, 鉄道運輸部会長 松本 成生, 鉄道営業部会長 玉置 大樹, 青年女性委員長 田内 健太

- 大坂地方本部 小谷 幸代, 大阪地方本部 楠崎 美紀, 北大阪支部 中西 晴子, 大坂支部 満原 あき, 天王寺支部 土井 幸, 松瀬 友香, 奈良支部 前田 利江, 会計監査委員 絹田 雅樹, 会計監査委員 吉田 太郎

光を当てることで、非常に大きな成果を労使で導き出すことができました。2025春闘では、2024春闘で勝ち取った「ベスアップ」を中心とした「賃上げ」の勢いを止めることなく、離職防止と採用競争力の向上、働き方の改善を意識し、労使で「人財」への投資の議論を深めていかなければなりません。経済情勢も緩やかに回復傾向ではありますが、未だ物価の上昇が止まらず、賃上げが物価の上昇に追いついていません。働きがいの向上や、生活の安定につながる賃上げを必ず実現しなければなりません。賃上げについても、コロナ禍前の水準を取り戻すことも必要です。春闘は労働組合の存在意義を高める重要な機会ですので、全組合員一丸となって機運を高める2025春闘を創りあげましょう。

また、女性役員の育成にも組織をあげて取り組むこととします。今、西労組全組合員のうち、女性比率は約15%程度であり、組合役員の女性比率では約11%程度と非常に低くなっています。家庭と組合活動の両立などの課題はありますが、この数年、女性が活躍できる職場環境も多くの改善が図られていることから、女性の声を会社に届けるためにも、女性役員が活躍できる環境整備も含め、取り組みをすすめていくこととします。

や生活にとって、政治は無関心であつても決して無関係ではありません。昨年10月に施行された第50回衆議院議員選挙では、皆さんのご支援でJR西労組推薦議員25名が当選を果たすことができました。本年、7月には第27回参議院議員選挙が控えています。特に、全国比例区においては、JR連合21世紀の鉄道を考える議員フォーラム所属の「浜野喜史」参議院議員の必勝に向け全組合員で取り組むこととします。